

令和4年度 神奈川県立希望ヶ丘高等学校 授業観察（前期）の振り返り

令和4年5月に全日制の課程、定時制の課程、合わせて70以上の授業観察を行いました。それぞれの授業で、様々な工夫、ノウハウがありましたので、それらを次の通り分類し、整理してみました。いくつかの事例については、

校長通信 (<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/kibogaoka-h/zennichi/kochotusin202205.html>) に写真付きで掲載しています。今後の授業改善に役立ててください。

(1) 授業時間確保の工夫

- 教員が授業開始時刻には教室にいますので、生徒はチャイム着席できている
- プロジェクターがいつでも使えるようになり、事前準備の時間が減っている
- 教材プリントをクラウドに保存しているため、前回欠席した生徒の対応が減っている
- 自宅待機となった生徒には、オンライン授業に参加させて学習保障をしている
- 解説動画をクラウドにアップして、生徒はいつでも復習できるようにしている

(2) 授業のユニバーサルデザイン・生徒一人ひとりを大切に取る取組

- 黒板に掲示物が貼られておらず、フロントゼロにしているため授業に集中しやすい
- OTTの連携により、机間指導の分担、ペアワークで相手がいない生徒の対応をしている
- カラーバリアフリーに対応したチョークを使用し、誰もが見やすい板書をしている
- 性別に関係なく、生徒名の呼び方を「さん」に統一し、呼び捨てにしない
- 口頭だけではなく、板書やスライドを併用して、今何をやる時間なのかを明確にしている

(3) 学習の見通しと振り返りを意識させる工夫

- 本時の目標、本時の流れ、配付・回収物を黒板に板書して、授業の最後まで示している
- 本時の流れ（本時の内容）で終わったものは見え消しにし、進捗を「見える化」している
- 授業のまとめの段階で、もう一度本時の目標を確認して、生徒に振り返りをさせている
- 単元の計画を教室に大きく掲げ、本時がどこに位置しているのかわかるようにしている
- 大型タイマーで活動時間を提示し、演習時間や話し合う時間の配分を生徒に意識させている
- ワークシートに本時の授業の振り返り欄を設け、生徒の学習意欲や主体性を高めている
- 毎時、振り返りシートを回収し、教員がコメントを書いて返却し、学習意欲を高めている
- 毎時、アンケートフォームで生徒に振り返りを入力させ、生徒の学習状況を把握している
- 年間指導計画・単元の指導と評価の計画をWebに掲載し、開かれた教育課程をめざす

(4) 生徒の関心・意欲を高める工夫

- ワークシートに本時のルーブリックを掲載し、生徒の学習意欲を高めている
- 可能な限り実物を見せたり、実験を演示したりして生徒の興味関心を高めている
- プロジェクターで画像や動画を見せて、これから学習する内容に興味を持たせている
- 生徒に今日のニュースなどを発表させ、身近な話題から本時の学習内容につなげている
- 地図、動画、写真等を提示し、教員の発問により、生徒に考えさせる導入を行っている
- フォームや共同編集機能を使って生徒全員の意見を収集、提示して導入に活用している
- 出席番号で指名するのではなく、学習状況を把握した上で発言させる生徒を指名している

(5) 知識・技能を定着させる工夫

- 本文を黒板に直接投影（黒背景、白文字が有効）し、チョークで書き込んで説明している
- 机間指導を繰り返し行い、生徒の質問対応、学習状況の把握に努めている
- 毎時間小テストを実施し、予習する習慣を身に付けさせ、知識の定着につなげている
- 既習事項をカードにして掲示し、本時の学習に必要な知識をクラス全員で共有している
- 生徒に地図アプリやグラフ作成ソフトを操作させて、様々な気付きの機会を与えている
- 生徒が立った状態で音読させ、教員が机間指導することで、音読の状況を把握している
- 英語のプレゼンテーション動画を視聴させ、その内容をペアに伝える活動を取り入れている

(6) 協働的な学びの工夫

- グループワークの流れ（個人で考える→グループで共有→全体で発表）を事前に示している
- グループごとに話し合ったことをホワイトボードにまとめさせ、そのまま発表させている
- 1グループを4人にして、生徒全員が話し合いに参加できるようにしている
- グループ内で生徒が順番に先生役になり、事前に調べておいた内容を他の生徒に教えている
- やや難易度の高い課題をグループ対抗で取り組ませ、生徒が互いに学びあう場になっている
- 付箋紙を使うことなく、ホワイトボードアプリで生徒の考えを共有させ、発表させている
- これまでの学習内容の理解度を生徒同士で確認しあうペアワークを取り入れている

(7) 生徒の発表機会を増やす工夫

- 全体発表だけでなくグループ内発表を多く取り入れ、生徒の発表頻度を高めている
- 指名した生徒が黒板で解答を書くだけでなく、黒板の前で生徒に説明させている
- 2グループ間で互いに発表しあうなど、聞き手の人数を減らして発表活動を増やしている
- 一人一台端末を活用して、4人グループ内で順番に画面を見せて発表を行っている

(8) 個別最適な学びにつながる工夫

- ワークシートの基本問題のあとに発展問題を盛り込み、余裕ある生徒に取り組ませている。
- 発展問題やその解答、解説などをクラウドに掲載し、主体的に学べるようにしている
- クラウドに教材プリントや解説動画を掲載し、各自が繰り返し学べるようにしている

(9) 探究的な学びにつながる工夫

- 教科書や資料集だけでは正解が見つからない発問をして、情報収集や思考を促している
- 演習問題を解くだけでなく、生徒が問題を自作する活動を取り入れている
- 教科書のコラムなどを紹介し、生徒に疑問を持たせて探究的な学びにつなげている
- 実験レポートの提出に向けて、探究的な学びにつながるような発問をしている

(10) 教員の働き方改革につながる工夫

- ワークシート、スライド、試験問題を全クラス共通にし、業務の効率化を図っている
- 生徒に購入させた副教材を中心に授業を進め、教材作成の時間を減らしている
- 教材をクラウドに單元ごとに整理してまとめ、次年度も利用できるようにしている

まとめ

- 各授業で様々な工夫がなされているので、校内で教科書を超えて互いに授業を見せ合うとよい
- 教科書の内容理解だけでなく、発表活動の充実や、発展的・探究的な学びにつなげるとよい
- 夏休みに各種コンテストや課題研究に取り組むことを生徒に促すとよい
- 一人一台端末は文房具のひとつとして、生徒が使う場面を選べるようにするとよい
- 見通しと振り返りを意識させる学習活動として、ポートフォリオの作成を推奨する